

CCI 文部科学省科学研究補助金
基盤研究 (S)

アフリカ狩猟採集民・農牧民の
コンタクトゾーンにおける子育ての
生態学的未来構築

ANNUAL REPORT
年次報告書
2024

目次 Contents

2024 年度を振り返って

研究代表 高田 明	03
-----------------	----

活動報告

海外派遣報告	04
主な業績	07
関連イベント	12



2024年度を振り返って

研究代表 高田 明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科・教授)

Principal Investigator: TAKADA Akira (Kyoto University, Graduate School of Asian and African Area Studies, Professor)

私が代表者として推進してきた科研費基盤研究S「アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築」も中間地点となる第3年度を終えました。その成果を報告する2024年度の年次報告書をお届けいたします。

近年、気候変動、経済格差の拡大、パンデミックなどがグローバルかつ急速に進み、未来の予測がますます難しくなっているなか、私たちの「心」や「文化」の形成過程やそれと環境との関わりについての経験論的な議論を進めること、それを受けて次世代に向けてよりよい未来の構築を支援していくことの必要性が高まっています。こうした問題意識を受けて、本プロジェクトは、人生の初期（0～5歳）における主体、他者、文化、環境の結びつきを、養育者-子ども間相互行為（Caregiver-Child Interaction, 以下CCI）を通じてハビトゥスとマイクロ・ハビタット（相互行為を可能にする構造化された場; Ochs et al. 2005）が相互構築されていく仕組みと考えています。乳幼児は間主観性を発達させることでハビトゥスを形成します。その過程では、生得的行動をその文化にあわせて社会化し（行動の社会化）、他者が話す言語を身体化して使いこなす（言語の身体化）、外在する制度を内面化して自分や社会を律して行く（制度の内面化）。また、これらと対応した行動環境、言語環境、制度環境がマイクロ・ハビタットを構成していきます。ハビトゥスとマイクロ・ハビタットは循環的に相互作用しますが、マクロな環境変化が生じるとそうした相互作用自体が再編されていくと想定されます。本プロジェクトではこのモデルを受けて、ボツワナ、ナミビア、カメルーンを主な調査地域としたアクション・リサーチを行っています。

2024年度は、研究員4名と事務補佐2名を採用し、研究実施に必要な機器（e.g. PC周辺機器、アイ・トラッカー、モーションキャプチャー、モバイルバッテリー）の整備、資料（e.g. 書籍）の購入、文字起こしの業務委託などを行いました。また、代表者の本務校である京都大学等において4回のデータセッションを行い、本プロジェクトに関して得られた最新のデータを集中的に検討しました。また、5回のThe Colloquium for Ecological Future Making（子育ての生態学的未来構築コロキウム）を主催し、本プロジェクトに関連している研究を推進している国内外の多くの研究者と集中的な議論を繰り広げました。さらに、Short Talkシリーズを企画し、今年度は7回にわたって本プロジェクトの関係者が最近進めている研究についてカジュアルに話し合う機会を持つことができました。

海外では、フィールド調査や国際学会での発表、国際ワークショップへの参加などのために多くの研究者を海外に派遣しました。例えば、2024年8月1日から9月6日にかけては、本事業の代表者がおもにボツワナのボツワナ大学、ニューカデ村、ナミビアのナミビア大学、ナミビアルター派福音教会、エコカ村、オナンジョコエ病院博物館などを訪問し、代表者の指導研究生や共同研究者と一緒に本プロジェクトに関する研究打ち合わせ、資料収集、現地調査などを行いました。これらを含む主だった成果については、本事業専用のHP(<<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/>>)で随時公開していますのでご参照ください。

海外派遣報告 2024.08-2025.03

高田 明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)

派遣先: ボツワナ・ナミビア / 派遣期間: 2024/08/01 - 09/06

ボツワナのボツワナ大学, ニューカデ村, ナミビアのナミビア大学, ナミビアルター派福音教会, エコカ村, オナンジョコエ病院博物館などを訪問し, 本プロジェクトに関する研究打ち合わせ, 資料収集, 現地調査などを行った。



ニューカデ・サン・クラフトショップで
展示・販売されていた木工品や装飾具

高田 明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)

派遣先: ナミビア / 派遣期間: 2024/10/18 - 11/03

ナミビアのナミビア大学, JICA ナミビア・オフィス, 在ナミビア日本大使館, オシャナ村, エンドベ村, オナンジョコエ医療博物館, ナミビア国立資料館・図書館などを訪問し, 本プロジェクトに関する研究打ち合わせ, 資料収集, 現地調査などを行った。



ナミビア大学にて, 左から大学院生の山本始乃さん,
高田さん, ナミビア大学の Martha Akawa 上級講師,
Romie Nghitevelekwa 講師, 大学院生の胡柳さん

Martha Akawa (University of Namibia) Romie Nghitevelekwa (University of Namibia)

派遣先: ナミビア / 派遣期間: 2024/11/04 - 11/14

They traveled to the Omuthiya Constituency in the Oshikoto Region to conduct fieldwork for the research project on the role of indigenous ecological knowledge in climate early warning and preparedness in northern Namibia's floodplain, also known as the Cuvelai Basin or Owambo.



調査地の様子

齋藤 美保 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 助教)

派遣先: タンザニア / 派遣期間: 2025/02/11 - 3/23

タンザニアのカタヴィ国立公園周辺に位置する3つの村において, 野生動物による食害に関するインタビュー調査を行った。また, ニエレレ国立公園やダルエスサラーム大学において, 研究打ち合わせを行った。



ゾウに踏み荒らされた田んぼ

詳細: 派遣報告一覧



海外派遣報告 2025.02-03

林 耕次 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員)

派遣先: カメルーン / 派遣期間: 2025/02/13-03/05

カメルーン南東部州のグリベにおいて、狩猟採集民バカを取りまく水・衛生事情について現地調査を行った。また、ロミエにおいては、昨年度実施したバカの演者による紙芝居の実演の様子を録画した映像をもとに、現地 NGO ASTRADHE 所属の Aleka 氏、M 集落の Ambassa 氏（いずれもバカ）に協力してもらい、実際にどのように語っているのか内容の確認とともに文字起こしを行なった。



小学校での紙芝居の実演

Hangula Simon (Senior Conservation Scientist, Ministry of Environment forestry and Tourism, GRN)

派遣先: カメルーン / 派遣期間: 2025/02/14-03/04

The purpose was to gather information on the socioeconomic status of the Bantu and Baka Pygmies in and around Gribe located in the forest region of the Eastern Region. Land degradation, poor productivity/yield, deforestation, and land conservation are some parameters to be assessed in this research visit. Mr. Simon, with the help of the local people, identified and mapped out the significant land use marks and ecological landscape fragments forms in the area.



Interviews and Baka and Bantus' data recoding in Gribe

William Kamgaing (JSPS researcher, Kyoto University)

派遣先: カメルーン / 派遣期間: 2025/02/14-2025/03/04

The purpose was to contribute to a rapid evaluation of land-use patterns and perceptions of forest degradation and agricultural productivity by the Bantu and Baka hunter-gatherers in southeast Cameroon.

They gathered the data in Gribe and Zokadiba villages. They administered interviews to household heads with a view to include both men and women in each ethnic group.



Kamgaing (on the left, with a red jacket) and Hangula (in the middle, with a green shirt) discussing with Baka hunter-gatherers in Gribe.

安岡 宏和 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)

派遣先: カメルーン / 派遣期間: 2025/03/07-03/21

東南部のグリベ村において、IRAD（国立農業開発研究所）の研究者とともに非木材林産物 (NTFPs) の加工技術を学ぶワークショップを実施した。

またズーラボット村では、狩猟採集民バカに我々が開発中の野生動物マネジメントの方法について説明したところ、バカにとって容易に理解できることが確認できた。このマネジメントを実装するプロセスを記述し、分析することは、本プロジェクトの問題意識に対して大きな示唆を与えるものだと考える。



バカの男に R/B モニタリングのコンセプトを説明しているところ

詳細: 派遣報告一覧



海外派遣報告 2025.03-04

高田 明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)

派遣先: アメリカ / 派遣期間: 2025/03/26-04/07

米国のポートランド, サンディエゴ, アルバカーキを訪問した。ポートランドでは, アメリカ応用人類学会と異文化間研究学会の合同大会に参加し, 発表を行った。サンディエゴでは, カルフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) を訪問して (写真), 共同研究を進めている認知科学学科の Federico Rossano 准教授らと研究打合せを行った。ニューメキシコ州のアルバカーキではプエブロ博物館を訪問した。アルバカーキでは, 心理人類学会に参加し, 発表を行った。



UCSD の認知科学部 (Department of Cognitive Science)

川島 理恵 (京都産業大学 国際関係学部 教授)

派遣先: アメリカ / 派遣期間: 2025/04/03-04/07

心理人類学会 (SPA) に参加しアフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築に関する情報収集および学会参加者と情報交換を行う。



SPA2025 会場 随所に Native American の作品が飾られている

詳細: 派遣報告一覧



主な業績

論文

- Burdelski, M. 2025. Interactional and cultural shaping of appetite: Children's talk about food taste during meal and snack time in Japanese preschool. *Appetite*, 211. 107930. <https://doi.org/10.1016/j.appet.2025.107930>
- Habtu, Y., Kumie, A., Selamu, M., Harada, H., Girma, E. 2024. Prevalence and determinants of occupational depression, anxiety, and stress among Ethiopian healthcare workers. *Scientific Reports*, 14. 1-17. <https://doi.org/10.1038/s41598-024-72930-x>
- Habtu, Y., Kumie, A., Selamu, M., Harada, H., Kaneko, M., Kaba, M., Girma, E. 2025. Perceptual link between inadequate water, sanitation, and hygiene (WASH) stressors and common mental symptoms in Ethiopian health workers: A qualitative study. *PLOS One*, 20(1). <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0314170>
- Habtu, Y., H., Kumie, A., Selamu, M., Harada, H., Girma, E. 2025. Health workers' conceptualization and experiences of common mental symptoms and work-related psychosocial stressors in Central and Southern Ethiopian regions: a qualitative study. *BMJ open*, 15(2). <https://doi.org/10.1136/bmjopen-2024-087811>
- Habtu, H., Kumie, A., Selamu, M., Kaba, M., Harada, H., Girma, E. 2025. Exploring the link between work-related psychosocial factors and professional quality of life among Ethiopian healthcare workers: Insights from structural equation modelling analyses. *PLOS One*, 20(3). <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0319870>
- 橋邇和秀. 2024. 「教え・育む」と「教わり・育つ」の対立と均衡点: ヒトの適応戦略としての教育とその心的基盤. 『教育哲学研究』 129. 7-13.
- Hayashi, K., Shimizu, T. 2025. Defecation Attitude and Influence of Toilet Construction Activities among the Baka of Southeastern Cameroon. *African Study Monographs. Supplementary Issue*, 63. 85-95. <https://doi.org/10.14989/294172>
- Hewlett, B., Boyette, A. H., Chellan, V., Dira, S., Fouts, H., Hill, K., Jang, H., Kakkoth, S., Noguchi, T., Omura, K., Schniter, E., Takada, A., Chaudhary, N., Salali, G. D., Sugiyama, M. S. 2024. Introduction: Stepfamilies, adoption and other forms of the family in hunter-gatherers. *Hunter Gatherer Research*, 9(3-4). 209-236. <https://doi.org/10.3828/hgr.2024.26>
- Kishimoto, R. Hashiya, K. 2025. Recency and rarity effects in disambiguating the focus of utterance: A developmental study. *PLOS One*, 20(2). <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0317433>
- 河本裕子. 2024. 焼畑用地選定に関する技能・知識の継承における視線計測技術の利用可能性. 農業農村工学会誌『水土の知』 92(6). 405-408.
- 河本裕子. 2025. 焼畑用地選定時における熟練者の視線. 『生態人類学会ニュースレター』 30. 61-65.
- Masse, M. C. O., Sonfo, T. A. N., Yasuoka, H. 2024. An assessment of forest use and its benefits on livelihoods: A case of the Baka and Bantu communities, Southeast Cameroon. *Forest Policy and Economics*, 169. 103344. <https://doi.org/10.1016/j.forpol.2024.103344>
- Nitta, H., Uto, Y., Chaya, K., Hashiya, K. 2025. Self-face processing in relation to self-referential tasks in 24-month-old infants: A study through eye movements and pupillometry measures. *Consciousness and Cognition*, 127. <https://doi.org/10.1016/j.concog.2024.103803>
- Noguchi, T., Takada, A. 2024. Help to climb up: Impacts of modern education among the G|ui and G|lana. *Hunter Gatherer Research*, 8(1-2). 101-117. <https://doi.org/10.3828/hgr.2024.4>
- 野口朋恵. 2024. ボツワナのゲイ/ガナ定住地における教育の再編. 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士予備論文.
- Sai A., Yamauchi T. 2025. What Motivates Toilet Use among Indigenous Communities?: Factors for Promoting Hygiene Behavior among Baka Hunter-gatherers in Cameroon. *African Study Monographs. Supplementary Issue*, 63. 69-84. <https://doi.org/10.14989/294171>
- Sambo, J., Nyambe, S., Yamauchi, T. 2024. A qualitative study on Menstrual Health and Hygiene Management among adolescent schoolgirls in peri-urban Lusaka, Zambia. *Journal of Water, Sanitation and Hygiene for Development*, 14(1). 15-26. <https://doi.org/10.2166/washdev.2024.069>
- Sambo J., Mifune R., Nyambe S., Sai A., Yamauchi T. 2025. Exploring Sanitation Challenges among Indigenous Hunter-gatherers, Farmers, and Merchants in Cameroon. *African Study Monographs. Supplementary Issue*, 63. 97-104. <https://doi.org/10.14989/294173>
- 関口慶太郎・高田 明. 2024. ブッシュマンにおける平等主義原則の再考: ボツワナ, ハンシ地区(カデ, ニューカデ, カガエ)における遠隔地居住者の社会変容の比較分析. 『アジア・アフリカ地域研究』 24(1). 78-110. https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/dl/publications/no_2401/24-1_78-110sekiguchi.pdf
- Takada, A. 2024. Doing being senior/junior: Reconsidering naming and kinship relationships among the !Xun of north-central Namibia. *Nordic Journal of African Studies*, 33(4). 406-416. <https://doi.org/10.53228/njas.v33i4.1147>
- Takada, A. 2024. The formation of natural persons and diversity of attachment relationships in hunter-gatherer child-rearing. *Hunter Gatherer Research*, 9(3-4). <https://doi.org/10.3828/hgr.2024.37>
- Takada, A., Noguchi, T. 2024. Diversity and transition of stepfamilies among the G|ui and G|lana. *Hunter Gatherer Research*, 9(3-4). 385-395. <https://doi.org/10.3828/hgr.2024.21>
- 高田 明. 2024. 他者と同じように行為すること: ケンの養育者＝乳幼児間相互行為の分析から. 『国立民族学博物館研究報告』 49(1). 67-92.
- Takagi, T., Morita, E. 2024. Differentiated use of Japanese interjective items eeto, sonoo and anoo in self-initiated, same-turn repair. *East Asian Pragmatics*, 9(2). 190-217. <https://doi.org/10.1558/eap.27444>
- 田中文菜. 2024. 書評『狩猟採集社会の子育て論—ケン・サンの子どもの社会化と養育行動』(高田 明 著, 京都大学学術出版会). 『アフリカ研究』 106. 54-56.
- Yamauchi, T., Hayashi, K., Kawamura, K., Sato, H. 2025. Nutritional Status, Physical Activity and Dietary Intake of Pygmy Hunter-Gatherers in a Forest Camp in Cameroon: The Possibility of Healthy Survival on Wild Forest Food Resources Alone. *African Study Monographs. Supplementary Issue*, 63. 9-20. <https://doi.org/10.14989/294167>
- Yamauchi, T., Takada, A. 2025. Introduction to the supplementary issue “Lifestyle and sanitation of indigenous populations in Cameroon”. *African Study Monographs. Supplementary Issue*, 63. 3-5. <https://doi.org/10.14989/294166>

主な業績

安岡宏和. 2025. 進化から「歴史」へ：マルチスピーシーズ歴史生態学の構想. 『生態人類学会ニュースレター』30. 150-154.

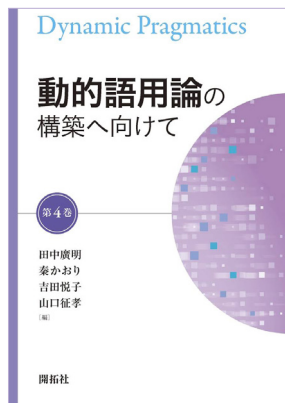
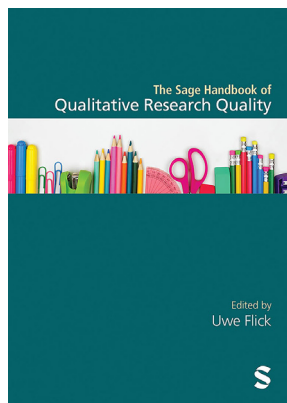
Zgambo J., Nyambe S., Yamauchi T. 2025. Changes in access to household handwashing facility and hygiene practice in Kanyama peri-urban, Zambia – a repeated cross-sectional study. *International Journal of Environmental Health Research*. <https://doi.org/10.1080/09603123.2025.2478249>

書籍（単著，編著）

Burdelski, M. 2024. Pragmatic Socialization. In Chapelle, C. A., Taguchi, N. Kadar, D. (Eds.), *The Encyclopedia of applied linguistics, second edition: Pragmatics*. Wiley-Blackwell.

Dan-Glauser, E., Kohn, N., Takada, A. (Eds.). 2024. Emotion socialization collection. *Scientific Reports*, 14.

Takada, A. 2024. Discourses of Qualitative Research Quality in Anthropology: Challenges of Cultural and Linguistic Anthropology. In U. Flick (Ed.), *Sage Handbook of Qualitative Research Quality*. London: Sage Publications, 152-165.



高田 明. 2024. 物語りと感情：ガイ／ガナの場所をめぐるトークの分析から. 田中廣明・秦 かおり・吉田悦子・山口征孝（編）『動的語用論の構築へ向けて』第4巻. 開拓社, 154-173.

高田 明, 野口朋恵, 林 耕次, 山内太郎, ニャンベ, シコボ. 2024. 学界通信：日本アフリカ学会第60回学術大会フォーラム報告「子どもをめぐるコミュニケーションと健康」. 『アフリカ研究』, 104, 23-40.

Takada, A. 2025. A history of socialization approach for cultural research of childhood learning. In S. Lew-Levy & S. Asatsa (Eds.), *A field guide to cross-cultural research on childhood learning: Theoretical, methodological, practical, and ethical considerations for an interdisciplinary field*. Cambridge, UK: Open Book Publishers, 34-36. <https://doi.org/10.11647/OBP.0440>

Takada, A. 2025. A language socialization approach for studying (social) learning in childhood. In S. Lew-Levy & S. Asatsa (Eds.), *A field guide to cross-cultural research on childhood learning: Theoretical, methodological, practical, and ethical considerations for an interdisciplinary field*. Cambridge, UK: Open Book Publishers, 87-89. <https://doi.org/10.11647/OBP.0440>

Takada, A. 2025. Conversation analysis approach. In S. Lew-Levy & S. Asatsa (Eds.), *A field guide to cross-cultural research on childhood learning: Theoretical, methodological, practical, and*

ethical considerations for an interdisciplinary field. Cambridge, UK: Open Book Publishers, 146-149. <https://doi.org/10.11647/OBP.0440>

高田 明. 2025. 相互行為の人類学による感情へのアプローチ：人類学の立場から. 植野仙経・佐藤 弥・鈴木貴之・村井俊哉（編）『感情が作られるものとしたら世界はどうなるのだろうか』金芳堂, 284-299.

安岡宏和. 2025. パカ・ビグミーの星はホタル？ 後藤 明（編）『星の文化史：世界13地域における星の知識・伝承・信仰』丸善出版, 104.

安岡宏和. 2025. 中部アフリカにおける野生肉危機と持続的狩猟のアカウンタビリティ. 『森林環境 2025』67-78.

安岡宏和. 2025. 森の「歴史」に参与する：キャンプ跡の幼木との出会い. 生態人類学会（編）『ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界』京都大学学術出版会, 128-129.

安岡宏和. 2025. 森の民の食文化：カメルーン，狩猟採集民パカの多様な食物. 藤本 武・八塚春名・桐越仁美（編）『食文化からアフリカを知る 65 章』明石書店, 18-23.



その他刊行物

今川恭子, 市川 恵, 伊原小百合, 長井寛子, 高田 明. 2024. 共同企画X ラウンドテーブル：音楽的社会化の展望：子どもの音楽的発達を捉える思考枠組をめぐって. 『日本音楽教育学』53(2), 96-97.

高田 明. 2025. リカオンとの遭遇：野生の力への眼差し. 生態人類学会（編）『ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界』京都大学学術出版会, 110-111.

Tanaka, J., Noguchi, T., Takada, A. 2024. Interview with Jiro Tanaka. *Hunter Gatherer Research*, 7(3-4). <https://doi.org/10.3828/hgr.2024.1>

基調講演・招待講演等

Burdelski, M. 2025. L2 child-initiated noticings: Intersubjectivity, attention, and affect. American Association for Applied Linguistics. Denver, Colorado, USA. March 22-25, 2025.

Burdelski, M. 2025. Bilingual and multimodal practices during transitional moments: Peer interaction in an “English only” classroom. 8th CAN-Asia Symposium. Pusan, South Korea. May 10-11, 2025.

Cekaite, A., Burdelski, M. 2024. Children’s orientations to institutional norms of space/place in preschool. Paper presents at IEMCA, Seoul, South Korea. June 24-27, 2024 (June 25).

主な業績

橋瀬和秀. 2024. せんせいは赤ちゃん～乳幼児のこころとコミュニケーションの発達～. 福岡市保育協会. 保育研修会講演. 福岡市市民福祉プラザ(福岡市). 2024年7月9日.

Hashiya, K. 2024. Evolutionary and Developmental Origins of Teaching and Learning in Humans. International Forum on Child and Adolescent Development. Shandong Normal University (Jinan, China). November 24, 2024.

橋瀬和秀. 2025. 赤ちゃん・子ども研究への招待: コミュニケーションとこころの発達へのアプローチ. 西南学院大学(福岡市). 2025年1月16日.

橋瀬和秀. 2025. マルチモーダルな経験としての子育て/子育て/コミュニケーション. 日本赤ちゃん学会保育実践科学部会早春セッション@糸島「デジタルで代替できるもの・できないもの」伊都文化会(糸島市). 2025年2月15日.

橋瀬和秀. 2025. 「愛着/アタッチメント」概念の歴史性—近代の養育規範に照らしてみる愛着/アタッチメント理論. 会員企画ラウンドテーブル指定討論. 日本発達心理学会第36回大会. 明星大学(日野市). 2025年3月4-6日.

橋瀬和秀. 2025. 発達カスケードの探究—乳幼児期のロコモーション発達を手がかりに—. 会員企画自主シンポジウム指定討論. 日本発達心理学会第36回大会. 明星大学(日野市). 2025年3月4-6日.

橋瀬和秀. 2025. 事象の因果に迫る. 人社系協働研究・教育コモンズ第32弾企画シンポジウム指定討論. 九州大学(福岡市). 2025年3月18日.

原田英典. 2024. グローバル WASH 普及目標と WASH システムの課題と展望. JICA 地球環境部水資源グループ Water, Sanitation and Hygiene (WASH) 勉強会. 東京. 2024年10月22日.

原田英典. 2024. アジア・アフリカの水・衛生—サニテーションの価値—. 高大連携の一環としての膳所高等学校生徒向け公開講座. 大津市. 2024年12月19日.

原田英典. 2025. 水と衛生の価値を見直し環境衛生の実現を目指す. 日本アフリカ学会第62回学術大会公開シンポジウム. 京都大学(京都市). 2025年5月18日.

服部 楓, 宮内翔子, 橋瀬和秀. 2024. 慣習的なオノマトベ語彙表現がない非言語音を言語化する方略とその発達の変化. 日本心理学会第88回大会. 熊本城ホール(熊本市). 2024年9月6日.

服部 楓, 宮内翔子, 橋瀬和秀. 2024. 非言語音に対する音声言語表現の収斂過程. 日本行動進化学会第17回大会. 広島修道大学(広島市). 2024年12月7-8日.

川島理恵. 2025. 相互行為のエンジン“連鎖組織”が build on されることで生み出される: 医師の提案発話における「やっぱり」表現に着目して. EMCA 研究会. 同志社大学(京都市). 2025年3月9日.

岸本励季, 橋瀬和秀. 2024. 情報伝達における情報の抽出と圧縮方略: 伝達相手の年齢による影響(研究計画). 日本人間行動進化学会第17回大会. 広島修道大学(広島市). 2024年12月7-8日.

高田 明. 2025. 文化・歴史的発達の視点から: 遊び, 学習, 労働をつなぐ社会的基盤. 日本学術会議・公開シンポジウム「人間にとって学習とは何か?」東京大学本郷キャンパス(東京都). 2025年3月20日.

高田 明. 2025. コメンテーター. 「揺れ動く「親子」のつながり: 世帯を移動する子どもの結婚交渉を事例に」日本アフリカ学会・北海道支部: 2024年度第1回例会. 北海道大学大学院保健科学研究院(北海道). 2025年3月18日.

Yamauchi, T. 2024. Disaster Nursing in the Future: Responding to a Changing Society and Planet. WKC Forum: Advancing Health and Resilience for emergencies and disasters: Interdisciplinary Collaboration Towards 2030 and Beyond / WHO Centre for Health Development (WHO Kobe Centre) WSDN 2024. JICA Kansai (Kobe, Hyogo). November 29, 2024.

山内太郎. 2024. コミュニティ・サニテーションと月経保健衛生: 子どもと地域と研究者の共創. 第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会・シンポジウム/日本ナイル・エチオピア学会・東洋大学国際共生社会研究センター. 東洋大学(東京都). 2024年4月20日.

山内太郎. 2025. 成長学の視点から: カラダ・アタマ・ココロのせめぎあい. 日本学術会議・公開シンポジウム「人間にとって学習とは何か?」東京大学本郷キャンパス(東京都). 2025年3月20日.

山内太郎. 2025. 狩猟採集民の子育てと子どもの生活世界. EZO セミ. 北海道大学環境科学院(北海道). 2025年3月26日.

学会発表・学術報告等

相場伸彦, 山内太郎. 2005. 多国籍の発掘調査団における共同生活上の課題と対策. 生態人類学会第30回研究大会. 青森大鰐温泉 不二ホテル(青森県). 2025年3月22日-23日(3月22日)

亀谷有莉奈, 山内太郎. 2025. カメルーン・ヤウンデにおける女子学生の月経保健衛生を阻む社会文化的要因. 第30回生態人類学会研究大会. 青森大鰐温泉 不二ホテル(青森県). 2025年3月22日-23日(3月22日).

加藤 幹治, 中川 裕. 2025. カラハリ狩猟採集民グイ・ガナの母語話者向け辞書: 冊子からスマホアプリへ. 日本アフリカ学会第62回学術大会研究発表要旨集, p.157. 京都大学(京都市). 2025年5月17日-18日(5月18日).

林 耕次. 2024. バカ・ピグミーの月経とその対応: カメルーン南東部の定住集落と森林キャンプにおける事例より. 第89回日本健康学会. 東京大学(東京都). 2024年10月13日.

林 耕次. 2025. 紙芝居による衛生意識の醸成—カメルーンのパカ・ピグミーを事例として—. 生態人類学会第30回研究大会. 青森大鰐温泉 不二ホテル(青森県). 2025年3月22日-23日(3月22日)

林 耕次. 2025. バカ・ピグミーの子どもたちに届ける紙芝居—衛生改善に関するアクション・リサーチの試み—. 日本アフリカ学会第62回学術大会研究発表要旨集, p.182. 京都大学(京都市). 2025年5月17日-18日(5月17日).

Kameya, Y., Sai, A., Yamauchi, T. 2024. Barriers to Menstrual Health and Hygiene among Female Students in the Slum Areas of Yaoundé, Cameroon: Challenges in Sanitation, Education, and Policy Awareness. International Society for Sanitation Studies Annual Conference 2024 / International Society for Sanitation Studies (ISSS). November 26, 2024.

Kameya, Y., Sai, A., Yamauchi, T. 2024. Assessing Menstrual Health and Hygiene Among Female Students in Yaoundé,

主な業績

Cameroon. The 2nd International Cameroon and Japan Workshop: Water, Sanitation and Hygiene and Menstrual Health in urban slums and indigenous communities in Cameroon. University of Yaoundé 1 (Yaoundé, Cameroon). August 23, 2024.

Naing, W., Yoshida, Y., Banda, K., Nyambe, A., Harada, H. 2025. A trial workshop for community-led self-visualization of fecal contamination in peri-urban Lusaka. 第 59 回日本水環境学会年会. 北海道大学 (北海道). 2025 年 3 月 19 日.

野口朋恵. 2024. ギイ/ガナ定住地におけるノンフォーマル教育の実態—子どもをめぐる相互行為の観点から—. 日本アフリカ学会 第 61 回学術大会研究発表要旨集, p.143. 大阪大学 (吹田市). 2024 年 5 月 18 日 -19 日 (5 月 19 日).

Noguchi, T. 2024. Education in Contemporary Hunter Gatherer Society: Focusing on Child-Facilitator Interactions in Non-Formal Education in the Settlement of the Glui and Glana. The Association for African Studies in Germany e.V. (VAD) Conference 2024. Bayreuth, Germany. September 30 - October 2, 2024.

野口朋恵. 2024. ボツワナのポスト狩猟採集社会における「障害」をめぐる一考察：ギイ/ガナの寝たきりの子どもを事例に. 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 熊本城ホール (熊本市). 2024 年 12 月 7 日 -8 日 (12 月 8 日).

Norimatsu, H., Negayama, K., Kimura, M., Cochet, H., Solomiac, S., Murakami, M., Soucas, R., Cayron, J., Takada, A. 2024. Comprehension et production de l'Humour chez les enfants ages de 0 à 6 ans: comparaison franco-japonaise. Paper presented at Symposium 3: "Comparative cognition and development", 53eme colloque de la Societe Francaise de l'Etude du Comportement Animal. Albi, France. May 22-24, 2024 (May 22).

Nyambe, S., Yamauchi, T. 2024. Project Highlight for 2.5 years of research in Zambia, Botswana, and South Africa. Co-creating a Community-based Water, Sanitation and Hygiene Model with children and youth (CO-CO WASH) Workshop. The Pearls Hotel and Conference Centre, Umhlanga (Durban, South Africa). September 17-20, 2024.

Nyambe, S., Sai, A., Yamamoto, R., Kameya, Y., Yamauchi, T. 2024. Exploring Cultural Beliefs and Practices Affecting Menstrual Health and Hygiene: A Foundational Study for Evidence-Based Interventions. International Society for Sanitation Studies Annual Conference 2024 / International Society for Sanitation Studies (ISSS). November 26, 2024.

Nyambe, S., Sai, A., Yamauchi, T. 2024. Introduction of Team Sanitation and Health. International Society for Sanitation Studies Annual Conference 2024 / International Society for Sanitation Studies (ISSS). November 26, 2024.

Sai, A., Yamauchi, T. 2024. Indigeneity in hygiene attitude and behavior among Baka hunter-gatherers in Cameroon: Elucidating sense of belonging through "open defecation". The 2nd International Cameroon and Japan Workshop: Water, Sanitation and Hygiene and Menstrual Health in urban slums and indigenous communities in Cameroon. University of Yaoundé 1 (Yaoundé, Cameroon). August 23, 2024.

Sai, A., Mifune, R., Yamauchi, T. 2024. Indigenous Menstrual Health and Hygiene: A Review and Case Study in the Hunter-gatherers' Community in Cameroon. Hokkaido-Melbourne Joint Research Workshop "Co-creation of Women's Health: Enhancing Global Menstrual Health and Hygiene". The University of Melbourne (Melbourne, Australia). October 29-30, 2024.

Sai, A., Hamidah, U., Sintawardani, N., Yamauchi, T. 2024. Fear and avoidance of sanitation workers: Stigmatization and coping strategies among urban-slum garbage workers. International Society for Sanitation Studies Annual Conference 2024 / International Society for Sanitation Studies (ISSS). November 26, 2024.

杉山 麻, 吉田頼人, 原田英典, Banda Kawawa, 三浦尚之, 浅田安廣. 2025. ザンビア・ルサカ市の都市周縁地域における水道水の飲用を想定した微生物汚染調査. 第 59 回日本水環境学会年会. 北海道大学 (北海道). 2025 年 3 月 17 日.

高田 明. 2023. 少数派の感情の相互行為分析. 会員企画シンポジウム「改めて自閉症を語り合う：特性と個性の間」日本教育心理学会第 65 回 (2023 年) 総会プログラム, p.7. オンライン開催. 2023 年 8 月 10 日 -9 月 10 日.

高田 明. 2024. 社会的距離と感情：ギイ/ガナの場所をめぐる物語りの分析から. シンポジウム「情動と仮想空間—感覚を通じた距離と共在の再考」京都大学 (京都市). 2024 年 1 月 27 日.

高田 明. 2024. シングルショット動画の可能性：相互行為分析の視点から. フォーラム「シングルショットという探究」日本アフリカ学会第 61 回学術大会. 大阪大学 (吹田市). 2024 年 5 月 19 日.

Takada, A. 2024. 6th colloquium of ecological future making of child rearing. Kyoto University (Kyoto, Japan). May 23, 2024. (Organizer)

Takada, A. 2024. 7th colloquium of ecological future making of child rearing. Kyoto University (Kyoto, Japan). June 20, 2024. (Organizer)

Takada, A. 2024. 8th colloquium of ecological future making of child rearing: Restructuring ethnicity, gender, and ecological knowledge in the contact zones of Namibia. Hybrid meeting (Zoom and Kyoto University, Kyoto, Japan). November 15, 2024. (Organizer)

Takada, A. 2025. 9th colloquium of ecological future making of child rearing. Kyoto University (Kyoto, Japan). January 16, 2025. (Organizer)

Takada, A. 2025. 10th colloquium of ecological future making of child rearing: Environmental history in Southern Africa. Kyoto University (Kyoto, Japan). February 19, 2025. (Organizer)

Takada, A. 2025. The quiet joy of fieldworkers in the Kalahari. Paper presented at panel "Secret Lives of Anthropologists: Challenges, experiences, and lessons from the field". The 85th Annual meeting of Society for Applied Anthropology, Hilton Portland Downtown, Portland, Oregon, USA. March 25-29, 2025 (March 28). Program, p.44.

Takada, A. 2025. (Re)generating environmental perception and social relationships: Analysis of child peer interactions among the G|ui/G|lana in Botswana. Paper presented at panel "Children's interactions with peers and others in learning environments". 2025 Society for Psychological Anthropology Biennial Meeting, Tamaya Resort, Santa Ana Pueblo New Mexico, USA. April 3-6, 2025 (April 6). Program, p.15.

Takada, A. 2025. 11th colloquium of ecological future making of child rearing: Projeto Filus: Cinema and Co-creation. Hybrid meeting (Zoom and Kyoto University, Kyoto, Japan). May 2, 2025. (Organizer)

高田 明. 2025. 紙芝居を用いた在来生態知識の再活性化：グ

主な業績

イ／ガナにおける『ツチブタ女の物語』の事例分析より、フォーラム「共有知生成と伝達からみるアフリカの社会変動：認識論的展開を求めて」日本アフリカ学会第62回学術大会研究発表要旨集, p.111. 京都大学(京都市). 2025年5月17日-18日(5月17日)。

Tanaka, A. 2024. Childcare among the Baka hunter-gatherers in southeastern Cameroon. 124th KUASS: Wildlife and Local Knowledge in Central Africa. Kyoto university (Kyoto, Japan). October 29, 2024.

Tanaka, A. 2025. Singing caregiving behavior for crying infants by Baka children. The research meeting *The Group Activities of Hunter-Gatherers - A Comparison of the Baka and the BaYaka*, Shizuoka University (Shizuoka, Japan). February 1, 2025.

田中文菜. 2025. 狩猟採集民バカの「歌・踊り遊び」におけるプレイヤーと観客。フォーラム「ホモ・ルーデンス研究の未来のためにー「遊び」の異分野融合的探求の試みー」日本アフリカ学会第62回学術大会研究発表要旨集, p.118. 京都大学(京都市). 2025年5月17日-18日(5月17日)。

渡邊麻友. 2025. ナミビア福音ルーテル教会 (ELCIN) における女性牧師をめぐる語り。日本文化人類学会近畿地区研究懇談会2024年度修士論文・博士論文発表会。国立民族学博物館(吹田市)。2025年2月16日。

渡邊麻友. 2025. ナミビア福音ルーテル教会 (ELCIN) の牧師による聖書解釈ージェンダーの視点からー。日本アフリカ学会第62回学術大会研究発表要旨集, p.170. 京都大学(京都市)。2025年5月17日-18日(5月17日)。

渡邊麻友. 2025. ナミビア福音ルーテル教会で語られるジェンダー観ー平等か差異かを超えてー。2025年度日本女性学会大会。立教大学(東京都)。2025年6月7日-8日(6月8日)。

Yamauchi, T. 2024. Global Perspectives on Water, Sanitation, Hygiene, and Health: Insights from Diverse Contexts and Occupations. Sustainability Research and Innovation Congress. Aalto University (Espoo, Finland). June 10, 2024.

山内太郎. 2024. 「再生」としてのサニテーション: 「負の資産の分かちあい」から「命の分かちあい」へ。 「分かちあい」の起原: ヒトとヒト以外の霊長類における共存の諸相 第4回研究会。東京外国語大学(府中市)。2024年6月22日。

山内太郎. 2024. 世界の子どもたちと未来のサニテーションを共創する。日本国際保健医療学会 第38回 東日本地方会。かでの2.7(北海道)。2024年7月6日。

Yamauchi, T. 2024. Research history in Cameroon (1996-) and future collaboration on WASH and MHH research. The 2nd International Cameroon and Japan Workshop: Water, Sanitation and Hygiene and Menstrual Health in urban slums and indigenous communities in Cameroon University of Yaoundé 1 (Yaoundé, Cameroon). August 23, 2024.

Yamauchi, T., Hagino, I. Little Foragers: Exploring the Active Role of Pygmy Hunter-Gatherer Children in Food Acquisition. 23rd EAA Congress -16th ISGA Congress - SSHB Congress University of Zagreb, Faculty of Kinesiology (Zagreb, Croatia). September 5, 2024.

山内太郎. 2024. グローバルサウスの地域社会における環境・社会・健康問題の解決に向けた超学際的アプローチ。これからのTD研究を考える／SRIREPプロジェクト+北海道大学大学

院文学研究院笹岡正俊研究室。北海道大学人文社会科学総合教育研究棟(北海道)。2024年10月15日。

Yamauchi, T., Sai, A., Nyambe, S., Zaman, M. N. U., Sambo, J., 2024. Co-creation of Women's Health: Enhancing Global Menstrual Health and Hygiene. Hokkaido-Melbourne Joint Research Workshop "Co-creation of Women's Health: Enhancing Global Menstrual Health and Hygiene" The University of Melbourne (Melbourne, Australia). October 29-30, 2024.

山内太郎. 2025. (パネルディスカッション登壇) 第3回「排泄の自然誌を編む」研究会 循環の中の排泄物／信州大学理学部生物学コース進化人類学分野。信州大学理学部(長野県)。2025年1月8日。

Yasuoka, H., Hongo, S. 2024. Harvest-based monitoring for cooperative wildlife management between local people and conservation actors in the Congo Basin Forests. The 18th International Society of Ethnobiology (ISE) Congress. Cadi Ayyad (Qazi Ayyaz) University (Marrakech, Morocco). May 11-14, 2024.

Yasuoka, H. 2024. Is R/B Monitoring local knowledge? If yes, what is local knowledge? 124th KUASS: Wildlife and Local Knowledge in Central Africa. Kyoto University (Kyoto, Japan). October 28-29, 2024.

吉田頼人, 高橋侃凱, Kawawa Banda, 原田英典. 2025. ザンビアのコレラ散発地域における飲料水質の変動と下痢リスクへの影響。第59回日本水環境学会年会。北海道大学(北海道)。2025年3月17日。

新聞記事等

原田英典. 2025. トイレは「入り口」に過ぎない! 世界の衛生改善プロジェクトの最前線。日本リサーチセンター 機関誌「エース」2025年春号, 287. 22-23.

受賞

原田英典「京都大学アカデミックデイ大賞」

「研究者と立ち話」部門にて一般参加者を対象に発表した「水・衛生でアフリカ都市スラムの下痢を防ぐ」に対して。京都大学アカデミックデイ事務局。2024年11月2日。

関連イベント

子育ての生態学的未来構築コロキウム

第7回 2024年6月20日

対面（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者：HANGLA Simon Hangula (Senior conservation scientist, Ministry of Environment, Forestry, and Tourism, Reubric of Namibia)

“The Namibian ecological mechanism causing landscape formation: Application of remote sensing and GIS mapping”

講演者：Yuichiro Fujioka (Kyushu University)

“Formation of “Forest for Gathering” and its Issues on Future Management: From the Comparison between Case Studies in Namibia and Japan”

講演者：Koki Teshirogi (Kanazawa University)

“How has the landscape of a giant Japanese horse chestnut forest in Japan been formed?: An integrated analysis of natural and social environmental factors”

第8回 2024年11月15日

対面・Zoom によるオンライン開催（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

Restructuring Ethnicity, Gender, and Ecological Knowledge in the Contact Zones of Namibia

講演者：Mayu Watanabe (Kyoto University, Japan)

“Pastors’ Gender Perspectives in Evangelical Lutheran Church in Namibia (ELCIN): From Two Feminist Ideologies”

講演者：Hu Elsa (Kyoto University, Japan)

“Old wisdom and essential foods: Discovering the food scenes of Ovambo single-mother household”

講演者：Simon Hangula (Ministry of Environment, Forestry, and Tourism, Namibia)

“The ecological mechanisms causing landscape ecological fragments formations: Application of Remote Sensing and GIS mapping in Namibia”

講演者：Yuichiro Fujioka (Kyushu University, Japan)

“Ondombe as cultural landscape: A monograph of seasonal wetlands utilization by Owambo people in north-central Namibia”

講演者：Mattia Fumanti (University of St Andrews, UK)

“The Otavi mine company lets its sick workers starve: Madness and well-being in the colonial mines”

講演者：Kleopas Nghikefelwa (Museum and Art Project Coordinator, Namibia)

“Bridging the San, Aawambo, and Christian cultural heritage: The life and achievements of Nghikefelwa Sakaria”

講演者：Romie Nghitevelekwa (University of Namibia) and Martha Akawa (University of Namibia)

“Indigenous ecological knowledge for climate early warning and preparedness in northern Namibia”



第7回 Simon Hangula さんの講演

The 7th Colloquium
of Ecological Future Making of Childrearing

DATE :20th June,2024 14:00~17:30

VENUE: #Large-sized meeting room, Inamori Memorial Foundation Building (third floor), Kyoto University

PROGRAM

14:00-14:05 Introduction Dr. Akira Takada
(Professor, Graduate School of Asian and African Area Studies (ASAFAS), Kyoto University)

14:05-16:05 Mr. HANGLA Simon Hangula
(Senior conservation scientist, Ministry of Environment, Forestry, and Tourism, Republic of Namibia)
The Namibian ecological mechanisms causing landscape formation: Application of remote sensing and GIS mapping

16:05-16:06 Dr. Yuichiro Fujioka
(Associate professor, Department of Environmental Changes Faculty of Social and Cultural Studies, Kyushu University)
Formation of “Forest for Gathering” and Its Issues on Future Management: From the Comparison between Case Studies in Namibia and Japan

16:06-16:15 Short break

16:15-17:15 Dr. Koki Teshirogi
(Associate professor, Institute of Human and Social Sciences Faculty of Education, Kanazawa University)
How has the landscape of a giant Japanese horse chestnut forest in Japan been formed?: An integrated analysis of natural and social environmental factors

17:15-17:30 Discussion

Hosted by JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (S) “Ecological future making of childrearing in contact zones between hunter-gatherers and agro-pastoralists in Africa” (Primary investigator : Dr. Akira Takada)

The 8th Colloquium of Ecological Future Making of Childrearing

Restructuring Ethnicity, Gender, and Ecological Knowledge in the Contact Zones of Namibia

PROGRAM

12:50-13:00 Akira Takada (Kyoto University, Japan)
Introduction to “Restructuring ethnicity, gender, and ecological knowledge in the contact zones of Namibia”

13:00-13:30 Mayu Watanabe (Kyoto University, Japan)
Pastors’ Gender Perspectives in Evangelical Lutheran Church in Namibia (ELCIN): From Two Feminist Ideologies

13:30-14:00 Hu Elsa (Kyoto University, Japan)
Old wisdom and essential foods: Discovering the food scenes of Ovambo single-mother households

14:00-14:30 Simon Hangula (Ministry of Environment, Forestry, and Tourism, Namibia)
The ecological mechanisms causing landscape ecological fragments formations: Application of Remote Sensing and GIS mapping in Namibia

14:30-15:00 Yuichiro Fujioka (Kyushu University, Japan)
Ondombe as cultural landscape: A monograph of seasonal wetlands utilization by Owambo people in north-central Namibia

15:00-15:15 Short break-----

15:15-15:45 Mattia Fumanti (University of St Andrews, UK)
The Otavi mine company lets its sick workers starve: Madness and well-being in the colonial mines

15:45-16:15 Kleopas Nghikefelwa (Museum and Art Project Coordinator, Namibia)
Bridging the San, Aawambo, and Christian cultural heritage: The life and achievements of Nghikefelwa Sakaria

16:15-16:45 Romie Nghitevelekwa (University of Namibia) and Martha Akawa (University of Namibia)
Indigenous ecological knowledge for climate early warning and preparedness in northern Namibia

16:45-17:30 General Discussion

VENUE: #Medium-sized meeting room, Inamori Memorial Foundation Building (third floor), Kyoto University
https://www.kyoto-u.ac.jp/access/3f

STYLE: All presentations will be given hybrid (on-site & online)

November 15th, 2024 12:50~17:30

Presentations will be given in English.

Photo by watanabe

関連イベント

第9回 2025年1月16日

128th KUASS (Kyoto University African Studies Seminar) 共催

対面・Zoom によるオンライン開催（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者：Haneul Jang (Institute for Advanced Study in Toulouse, France)

“Women’s cooperation in foraging and childcare among the BaYaka hunter-gatherers in the Republic of the Congo”

第10回 2025年2月19日

129th KUASS (Kyoto University African Studies Seminar) 共催

対面（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

Environmental History in Southern Africa

講演者：Dr. Maohong BAO (Specially Appointed Professor, Center for Global History, Osaka University / Peking University)

“The environmental history of gold mining in South Africa: Focusing on environmental racism”

講演者：Dr. Ndapewa Fenny Nakanyete (Lecturer of Human Geography, Department of Environmental Science, University of Namibia)

“The transformation of socio-economic relationships between the San and Ovambo people since the mid-1950s”

討論者：Dr. Yanyin ZI (Assistant Professor, College of Intercultural Communication, Rikkyo University)

第11回 2025年5月2日

対面・Zoom によるオンライン開催（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者：Prof. Pamela Block (Department of Anthropology, Faculty of Social Science, University of Western Ontario, CA)

“Projeto Filus: Cinema and Co-creation”

129th KUASS (Kyoto University African Studies Seminar)
The 10th Colloquium of Ecological Future Making of Childrearing

Environmental History in Southern Africa

Dr. Maohong BAO
Specially Appointed Professor
Center for Global History, Osaka University
Peking University

The environmental history of gold mining in South Africa: Focusing on environmental racism

Dr. Ndapewa Fenny Nakanyete
Lecturer of Human Geography
Department of Environmental Science
University of Namibia

The transformation of socio-economic relationships between the San and Ovambo people since the mid-1950s

PROGRAM

14:00-14:05 Introduction by Dr. Akira Takada (Professor, ASAFAS, Kyoto University)
14:05-15:05 Presentation by Dr. Maohong BAO
15:05-15:15 Short break
15:15-16:15 Presentation by Dr. Ndapewa Fenny Nakanyete
16:15-17:00 Discussion by Dr. Yanyin ZI (Discussant, Assistant Professor, College of Intercultural Communication, Rikkyo University)

Wednesday, February 19, 2025
14:00-17:00 (JST)
Large-sized Meeting Room
3F, Inamori Foundation Memorial Hall
Kyoto University

THE CENTER FOR AFRICAN AREA STUDIES KYOTO UNIVERSITY
4F Inamori Foundation Memorial Hall, Kyoto University
TEL: +81-75-753-7801 / 7803
FAX: +81-75-753-7801 / 7804
E-mail: caas@caas.kyoto-u.ac.jp
http://www.africa.kyoto-u.ac.jp/

The 11th Colloquium of Ecological Future Making of Childrearing

Emancipatory Disability Research in Brazil: A Legacy from Participatory Anthropology, Disability Studies, and the Occupational Therapy without Borders Movement

**Friday, May 2, 2025
15:00-17:00**

PROFESSOR PAMELA BLOCK
Department of Anthropology,
Faculty of Social Science,
University of Western Ontario, CA

VENUE: # Large-size Meeting Room
Inamori Memorial Foundation Building (third floor), Kyoto University
<https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/access/>

STYLE: All presentations will be given hybrid (on-site & online)
Discussant: AMO Kae

Participation application URL
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdyJx_u8QOMVChsk4UQMuGihAqzyHDHTSNjLQCGGCTQ_U4E0nMg/viewform

Professor Block has documented the lives of people with albinism in Brazil, and will use related ethnography and video research to provide an overview of disability activism and intersectionality, which are used to advocate for the rights of people with disabilities and improve their well-being.

Presentations will be given in English.

CCI データセッション

第117回 2024年7月16日

対面（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

発表者：井芹ジョセフ（ハワイ大学マノア校）

「本読み聞かせと言語社会化」

第118回 2024年11月16日

対面（筑波大学東京キャンパス）

発表者：高木智世（筑波大学）

「日本語のインタラクション」

第119回 2025年2月1日

対面（静岡大学人文社会科学部）

発表者：彭 宇潔（静岡大学）、Haneul Jang (Institute for Advanced Study in Toulouse)、田中文葉（京都大学）

コメンテーター：高田 明（京都大学）

「狩猟採集民の集団活動について：Baka と BaYaka との比較」



第119回（2025年2月1日）の様子

関連イベント

CCI ショートトーク

第1回 2024年4月26日

対面・Zoomによるオンライン開催（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者：高田 明（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

「ゲイ/ガナをめぐる場所の物語り」

第2回 2024年6月3日

対面・Zoomによるオンライン開催（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者：Prof. Peg Barratt (George Washington University)

“Solar Cooking: A cross-cutting solution”

第3回 2024年7月17日

対面・Zoomによるオンライン開催（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者：山内太郎（北海道大学）

「サニテーションからプラネタリーヘルスへ：負の財の分かち合いから命の分かち合いへ」

第4回 2024年7月26日

対面・Zoomによるオンライン開催（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者：橋彌和秀（九州大学）

“Development of Distribution Behavior: 5 to 8 Year Olds Do Not Consider the Recipient’s Consumption History, While Adults Do”

第5回 2024年9月20日

対面・Zoomによるオンライン開催（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者：Kuela Kiema (Community Development Officer)

“Preserving San Culture: Efforts and Future Prospects ”

講演者：中川裕（東京外国語大学）

「クリック流入音と齒列：齒を失うとクリックはどうなる？」

第6回 2024年10月21日

対面・Zoomによるオンライン開催（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者：Carol Marie WORTHMAN (Emory University)

“How to get a life: Culture and practice in action landscapes”

第7回 2025年1月14日

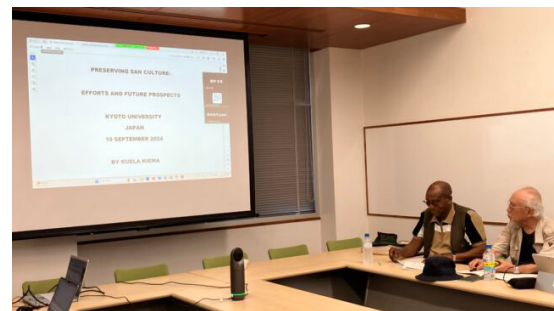
対面・Zoomによるオンライン開催（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

講演者：林 耕次（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）

「紙芝居を使った衛生意識の醸成(バカ・ビグミー、カメルーン)」



第2回 Peg Barratt さんの講演



第5回 Kuela Kiema さんの講演



第6回 Carol Marie WORTHMAN さんの講演

インタビュー記事

川島理恵（京都産業大学国際関係学部）、マシュー・バーデルスキー（大阪大学人文学研究科日本学専修日本語学講座）へのインタビュー記事

https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/kawashima_matt_20240712/

本プロジェクト ウェブサイトのお知らせ

アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築



<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/>



2024 年度 年次報告書

2025 年 6 月 30 日 発行

編集・発行: 高田 明 (研究代表)

E-mail: cci.takada.lab@gmail.com